

第 60 回 全国学校保健研究大会 副会長 大村洋子
第 10 課題「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」

平成 22 年 11 月 19 日 (金) 第 10 課題「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」が群馬県生涯学習センターにて開催された。以下要約を報告する。

「我が国の青少年の薬物乱用の実態と薬物乱用防止教育」

岐阜薬科大学 学長 勝野眞吾先生の講義

健康教育の 1 つとして薬物乱用防止教育を行っている。危険行動の一次予防として (教育) 今の危険な行動をしていない人を対象にする。

一次予防が何故大事なのか・・・一歩外に出る (日本を出る・インターネット) 状況が変わる。

* 薬物に手を染めさせたくない。薬物をやっていない人をやってないままにする。

{依存} の説明のとき・・・ゲーム依存などとは、区別できるようにする。薬物依存は、脳にかかわる。薬物は、血液脳関門 (脳の関所) を通過してしまう。

* 日本における青少年の薬物乱用の実態【大麻・・・中学生：約 12,000 人、高校生：約 12,400 人 18~22 歳：100,000 人】

* 世界の薬物乱用の実態【世界で最も乱用されている薬物は大麻である。例：ドイツのブレーメン・・・小さい公園の一角に注射器の自動販売機がある。

(理由) ヘロインという麻薬乱用者のための自販機。ヘロインを、取締り強化したら、闇でかくれて注射。不潔な針の回し打ちで、エイズ患者が増えた。エイズ対策で新しい注射器で、打たせる事になった。公園の周りには、血のついた注射器が落ちている。

* 一次予防

大変効果がある。ただし、継続が大事である。世界の中で、きちんとやっていると、効果があがっているとデーターが示されている。誇りをもって、自信をもって教育をしてほしい。

* 薬物乱用防止教室

日本では、1989年の学習指導要領で、明確に位置づけられた。乱用される薬物の情報を、雑誌などから得たという生徒が減少し、2006年にはほとんどの生徒が、授業から正確な情報を得るようになってきている。覚せい剤。MDMA。大麻・・・増えている。ますます薬物乱用防止教育の意義を、改めて自覚することが求められている。学校薬剤師は、積極的にかかわってほしい。一次予防の大切さを改めて実感しました。

研究発表

1、愛知県愛西市佐屋西小学校 教諭：加藤ひろ美

(研究主題)「心いきいきたくましく」アンケート結果 高学年対象：タバコを吸いたいと思った児童・・・5%、 お酒を飲みたいと思った児童・・・17%

薬物乱用防止教育の取り組みで、学校薬剤師がかかわったこと

①毎年 3 月、6 年生対象に薬物乱用防止教室を開催。

1 次：タバコ・アルコールについてクイズ形式で学習。学校薬剤師をゲストティーチャーに招いて、薬物による体への影響について専門的に説明。

②学校保健委員会・・・年 3 回開催。地域ぐるみで児童の健全育成にむけ取り組む。

2、群馬県立沼田高等学校 教諭：潮田 剛

(研究主題) 高等学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

* 生徒の生きる力をはぐくむ取り組み：五常の教えを生徒たちに浸透させる

「仁」は思いやりの心・「義」は不正を憎む勇氣・「礼」は他人を敬う気持ち

「智」は善悪を見分ける判断力・「信」は誠実な姿勢 すべてが備われば「人の道」を踏み外すことはないと考え、生徒自身が自らを省みる指針とさせている。

* 各教科での指導実践・・・家庭科・保健体育・理科・社会

* 学校行事など、取り組み (学校薬剤師は、登場しなかった)

質問> 20 歳になったら何故、タバコ、お酒は許されるのか？何故大人はいいのか？
どういう風に説明されていますか？

回答> (0 小学校) 大人は自己責任。判断力をつけてほしい。大人も、いけないものはいけない。周りの健康も考える。(中学校) 大人は自己管理能力で責任を持つ (高校) 法律をしっかりと守る。未成年に飲酒をすすめた大人が罰せられる。禁煙スペースの拡大。時代としても、健康を守るために動いている。(学校薬剤師より) 依存性がある。依存には、年齢制限がないことを理解する。学校薬剤師として、訴え方がマンネリにならない方法を模索しなければならないと思った。

その他発表がありました。

文責 守谷まさ子